

特別な支援を必要とする子供への就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制整備

目的

【課題】

障害児の学びの場が従来の特別支援学校だけでなく、チャレンジスクールなど多種多様になっている。保護者は自分の子どもの能力を伸ばすための環境として何処を選択すべきか迷い、問合せをしてくるケースが増えてきた。保護者の相談に応じるため、就学前から就労までの切れ目ない相談支援体制を拡充し、一貫した支援を提供することが望ましい。

【目的】

○就学前から就労に至るまでの切れ目ない支援体制整備



成果

- 保護者のコミュニティ「みんなとcafeひだまり」での特別支援教育に関する情報提供を通じて、保護者支援に繋がった。
- 特別支援コンシェルジュが就学相談など個別のケースに入ることによって、保護者に子どもの将来の自立を踏まえた長期的な視野での相談体制を構築することが出来た。
- 障害福祉部門や子育て部門など特別支援教育に関わる関係機関と連携することで情報共有できる体制が強化された。

【今後の課題】

- 「みんなとcafeひだまり」の新たな保護者ニーズに応じたテーマの設定

事業内容

○教育センターへの特別支援コンシェルジュの配置

特別な支援を必要とする児童・生徒の将来の自立に向けて、保護者や関係機関に必要な教育や支援に関するアドバイスを行った。

○特別支援教育連絡協議会及び担当者連絡会の開催

切れ目ない相談支援体制の強化のため、関係機関の取組や課題の共有を行った。

○保護者のコミュニティ「みんなとcafeひだまり」の開催

保護者の不安や悩みに寄り添い、子どもの社会的自立を目指すとともに保護者同士が経験を伝えあったり情報を交換・共有したり、保護者が孤立せずに、子どもの成長や将来について一緒に考えられるようにした。

切れ目ない支援体制の推進

○特別支援教育連絡協議会

教育関係機関、障害福祉機関
子育て機関、医療機関による課題や情報共有

関係機関の連携強化

関係機関と連携

特別支援コンシェルジュ

保護者と繋がる

保護者支援

○みんなとcafeひだまり

発達段階に応じたテーマを設定
保護者への情報提供

○就学相談など

子どもの将来的な自立を踏まえた学校支援について説明